

平成27年9月19日開催

たまがわ ある 多摩川を歩く・ 河口編 ②

⑥大師河原河川防災ステーション

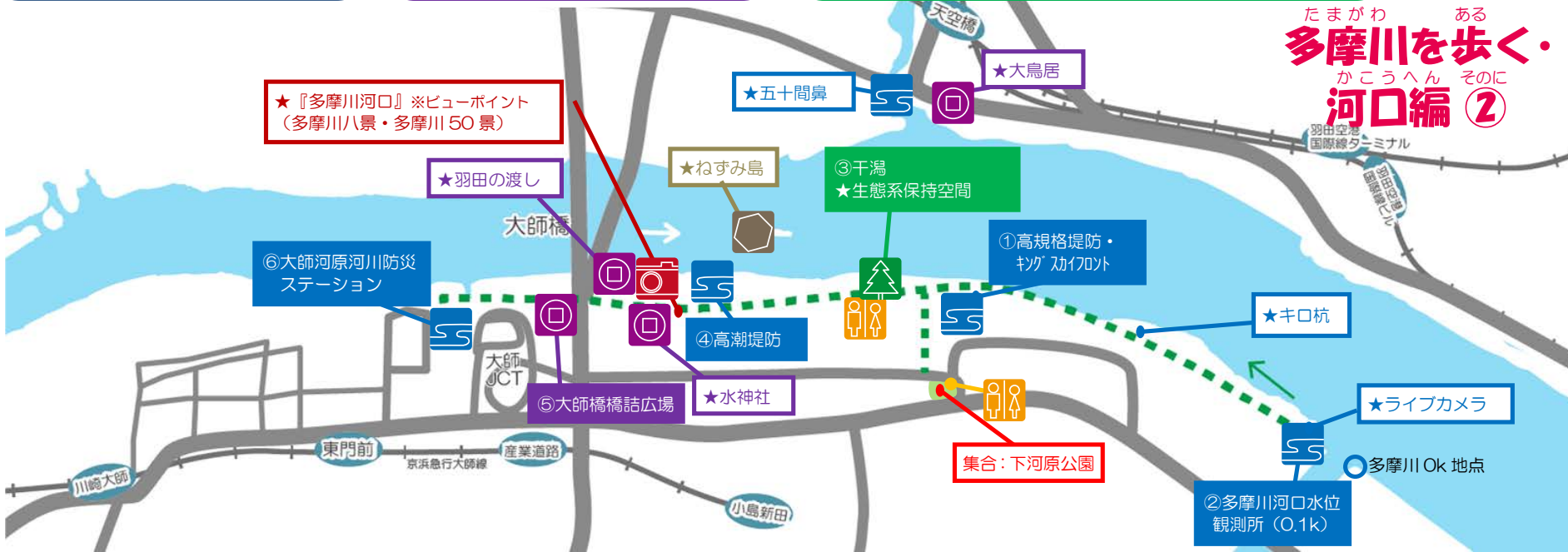
平成19年に完成。災害時には緊急復旧活動の基地となる一方で、平常時は多摩川のことについて知り、防災や環境について学習できる場として利用できます。
市民公募により決まった「大師河原干潟(ひがた)館」という愛称で親しまれています。

⑤大師橋詰広場(旧大師橋橋脚)

昭和14年10月に旧大師橋が建設され、大師橋付近にあった「羽田の渡し」「大師の渡し」は廃止されました。渋滞の恒常化、老朽化により現在の橋に架け替えられましたが、今でも両岸に旧大師橋の親柱が保存されています。

③干潟

干潟とは、干潮時に沿岸域にあらわれる、砂や泥がたまった場所のことです。
干潟は多様な環境に恵まれているため、多くの種類のカニや貝、魚、野鳥が生息しています。
多摩川河口の干潟の一部は、『多摩川水系河川整備計画』において、「生態系保持空間(⑧空間)」に位置づけられています。



④高潮堤防

台風や発達した低気圧が通過するとき、潮位が大きく上昇することがあり、これを「高潮」といいます。
人口、資産が集中している多摩川下流部の高潮災害を防ぐため、高潮堤防の整備を進めています。

整備の内容

①-1 高規格堤防

多摩川では、堤防の幅が通常の堤防よりも広い「高規格堤防」を整備しています。これにより、万が一計画を超えるような大洪水が起きて水が溢れることはあっても、堤防の決壊は防ぐことができ、壊滅的な被害を避けることができます。

高規格堤防特別区域 約300H
河川区域
高規格堤防

①-2 キングスカイフロント

川崎市殿町地区では、ライフサイエンス・環境分野における世界最高水準の研究開発から新産業を創出する「国際戦略拠点」の形成が進んでいます。
この国際戦略拠点は、平成23年3月、「キングスカイフロント」と名付けられ、国家戦略特区・国際戦略総合特区等の区域に指定されています。

②多摩川河口水位観測所 (O.1k)

河川を管理するために、河川の水の高さ(水位)を測る施設です。
観測している水位は、河川の管理や計画をつくる上で基礎的な資料となります。また、洪水時には被害防止や迅速な避難に役立つ情報として活用しています。

